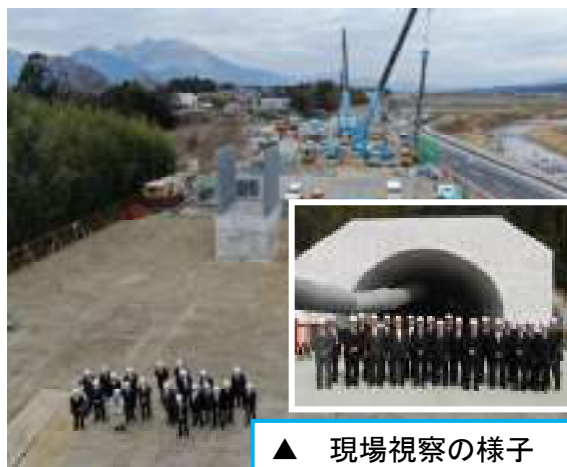


国土交通省中部地方整備局との意見交換会及び現場見学を開催

三重県商工会議所連合会

令和2年2月12日（水）三重県商工会議所連合会（会長 種橋潤治）は国土交通省中部地方整備局との意見交換会及び現場見学を開催しました。現場見学では、北勢バイパス坂部トンネル及び東海環状自動車道大安IC 付近橋梁工事現場において、北勢国道事務所の伏木所長等から事業概要、進捗状況、ストック効果等の説明を受けました。

その後、会場を四日市商工会議所に移して意見交換会を開催し、県内12商工会議所の会頭や副会頭、専務理事の25名が出席し、国土交通省からは中部地方整備局



▲ 現場視察の様子



の勢田昌功局長をはじめ担当部長、所長の14名が出席しました。

種橋会長は挨拶の中で「産業基盤となるインフラ整備は極めて重要であり、大きな期待を寄せる一方で、ミッシングリンク、未事業化区間も存在し渋滞が発生し、これを補完する道路ネットワーク整備、港の機能強化と耐震、河川や海岸の整備、異常降雨による土砂災害対策等の防止対策が課題であり、産

業、観光振興において、三重県のもつポテンシャルが十分発揮できるよう、安定的な予算の確保と一層の社会基盤整備の推進をお願いしたい」と話しました。



▲ 意見交換会の様子、挨拶をする勢田局長（左）と種橋会長（右）

勢田局長からは「三重県は台風・南海トラフ等自然災害の危険性も高い地域でもあるので、防災対策として、道路・河川・港の整備に加え、企業BCPを含めた地域防災対策を講じたい。また、交通インフラを含めた基盤整備として、様々な道路ネットワークを整備しているが、既に整備された道路での渋滞ヶ所についても改善していきたい。更に、交通インフラ整備により、港の活用の幅も広がることから、港湾整備について意見交換をしたい」と挨拶がありました。

意見交換会では、中部地方整備局から事業概要や防災・減災、国土強靱化への取り組みについて説明の後、各商工会議所から道路網整備の促進、港のインフラ整備、海岸整備、河川改修などについて地域の実情を踏まえた要望等があり意見交換を行いました。